

獣医保健看護学科

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

（令和10年4月1日から施行）

獣医保健看護学科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の達成を目指し、生命と福祉に関わる科学的根拠に基づいた判断力と実践力を備え、動物医療、動物愛護及び適正飼養の分野において専門的に貢献できる人材を養成するため、以下に掲げる考え方に基づき、教育課程を編成・実施する。

1. 教育課程の編成に関する基本的な考え方

- (1) 1年次に、高等学校までの学習内容に不安のある学生や未履修分野を補う必要のある学生に対して、大学教育への円滑な移行を支援するための科目として「自然系科目」、「外国語科目」等（「基礎教育系科目」）を設置し、基礎学力と学修習慣の確立を図る。
- (2) 1年次を中心に、幅広い教養と論理的思考力、情報活用能力を培うため、全ての学生が履修する「基礎教育系科目」を配置するとともに、専門教育への導入として動物の形態・機能・行動、倫理・福祉などを学ぶ専門共通系科目を配当する。
- (3) 2年次以降を中心に、愛玩動物看護師として必要な専門知識・技術を体系的かつ段階的に修得できるよう、基礎動物学、基礎動物看護学、臨床動物看護学及び愛護・適正飼養学の4領域を中心に順次性に配慮しながら専門科目（専門共通系科目）を設置する。
- (4) 動物医療・動物福祉を多角的に理解するため、獣医学科及び動物応用科学科と連携した学際的な学びの機会を提供する。
- (5) 動物病院、自治体、産業界等の学外との連携を通じて、実践的課題に取り組む体験的・対話的学修を重視し、チーム獣医療に必要な協働力とコミュニケーション能力を養う。
- (6) これまでに獲得した知識と技術を統合し、科学的根拠に基づいて課題を発見・解決できる力と自律的に学び続ける態度を育成するため、ゼミ、卒業論文等の科目を設置する。

2. 教育課程の実施に関する基本的な考え方

- (1) 各授業科目について、到達目標、授業計画、実施方法、成績評価基準等を明確にし、シラバスを通じて学生に周知する。また、学修到達目標と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従い、授業設計を行う。
- (2) 学生が主体的に考え、課題を発見・解決する力を育成するため、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、PBL、ケーススタディ等）を積極的に取り入れ、授業形態及び指導方法を工夫する。
- (3) 臨床現場や社会での実践力を涵養するため、学内実習、動物病院実習、社会連携プログラム、課題研究、卒業論文等、多様な教育形態を活用し、体験的・協働的な学びを推進する。

(4) 知識及び技術を効果的かつ効率的に修得するため、ICT を活用する。

3. 学修成果の評価に関する基本的な考え方

別に定めるアセスメントプランに基づき、学修成果の把握及び検証を行い、教育、学修支援等の改善・向上を図る。